

「あつ木のおもちゃ」で木育

子どもが生まれた家庭に間伐材で作った積み木を贈呈



市長から積み木を受け取る牧さん（左）

子どもが生まれた家庭に市内産のヒノキで作った積み木をプレゼントする事業を、8月から始めました。初日は、小林市長が厚木市まるごとショップ「あつまる」で、3組の親子に積み木を手渡しました。

積み木の材料は、森林整備の際に生じる間伐材を利用。良好な森林環境の保全と、子どもたちに幼少期から木のぬくもりや質感に触れてもらうことを目的としています。対象者には、助産師や保育士が家庭訪問の際に引き換え券を配布し「あつまる」で受け取る仕組みです。積み木を受け取った牧裕二さんは「積み木からヒノキの香りがして、厚木の自然の良さを感じた。大切に使います」と話しました。



七つの事業を市民らが評価 市民参加型外部評価を実施

外部評価は2008年から実施し、これまで162事業を評価してきました。今回は高年齢者の雇用や、市内での住宅取得支援、スポーツ推進・コミュニティ保育推進の補助金、情報プラザ・生きがいセンターの維持管理事業などを評価しました。評価の様子は、インターネットで生中継しました。結果は、9月頃に市ホームページで公開し、事業の改善に生かします。



2日間にわたり7事業を評価する委員たち

市の事業を市民らの視点で評価しサービスの向上につなげる「市民参加型外部評価」を、あつぎ市民交流プラザで実施しました。大学教授や公募市民6人でつくる外部評価部会委員らが、市の事業を「拡大」「現行どおり」「要改善」「縮小」「廃止」の五つの区分で評価しました。

犯罪に強いまちを目指して

安心・安全セーフコミュニティ推進地区指定式を開催

世界保健機関が推奨するセーフコミュニティ（SC）の認証都市である市は、新たに市内16地区を「安心・安全SC推進地区」に指定しました。指定式には、各地区の代表者が出席し、小林市長から指定書を受け取りました。



押部修一厚木警察署長（右）からはプレートが渡された

推進地区の指定は、市がSCの認証を取得した翌年の2011年から実施。指定を受けた地区は、子どもの見守り活動や防犯パトロールなどに取り組みます。推進地区を代表して決意表明した、陸合北地区の袖澤良春さんは「SCの取り組みを充実させ、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進します」と力強く宣言しました。

厚木名産のアユを手笑顔

「小学生鮎つかみどり」参加予定者にアユを配布

あつぎ鮎まつりの延期に伴い中止となったアユのつかみ取りイベントに代わり、参加予定者への無料配布を実施しました。受け取った子どもたちは「もらえてうれしい」「来年はつかみ取りをしたい」と、笑顔を見せていました。



中町大型バス発着場に設けた会場で配布

配布は、市内産のアユを子どもたちに味わってもらおうと実施。参加予定だった小学生600人に連絡し、約400人が受け取りを希望しました。当日は、混雑を避けるために市が指定した時間に合わせて親子連れが会場を訪れ、4匹ずつアユを受け取りました。相模川第二漁業協同組合の栗原信二さんは「配布を通じて一人でも多くの子どもの厚木のアユに興味を持ってもらえたらうれしい」と話しました。

第11回 みんなで! SDGs

持続可能な社会を目指す世界共通の目標「SDGs」。その達成のために17の目標を知り、できることから実践しませんか。

目標17 パートナースhipで目標を達成しよう

幅広い分野にわたるSDGsの目標の実現には、国だけでなく、企業、学校、地域、家庭での取り組みが欠かせません。一人一人が、自分ごととして実現を目指しましょう。

17 パートナースhipで目標を達成しよう



できる取り組みは?

SDGsの情報を拡散する

SDGsの実現には、多くの人の協力が不可欠です。情報は、テレビやインターネット、新聞などで毎日のように目にする機会があります。家族や友人などと話したり、SNSで発信したりするなど、周りに広めましょう。



SDGs関連のイベントに参加する

関連イベントへの参加も、個人ができることの一つです。SDGs全般の理解を深められるのはもちろん、地域での身近な取り組みを知ることができます。イベントへの参加は、SDGsを「自分ごと化」するきっかけにつながります。

企画政策課 ☎225-2450

「鮎まつりを延期する」。開催2週間前、実行委員会に諮り苦渋の決断を下しました。感染症が過去最大の勢いで再拡大する中、来場者や市民の皆さんの安全を守るのは難しいと判断したからです。

うとともに、対策の難しさを身をもって痛感しました。今後も新たな変異株が出現する可能性があります。各自ができる防衛策を徹底していただくようお願いいたします。

花火は、11月5日に延期することとなりました。少し寒い時期ですが、澄んだ夜空に上がる花火は色鮮やかで美しいことと思います。今度こそ念願をかなえられるよう、安全な開催に向けた準備を進めてまいります。



11月5日に延期となった鮎まつり

予定通りできなかったことが残念でなりません。収束に向かっていると思われていたコロナ禍は、「BA.5」の出現で状況が一変しました。私自身も7月上旬に発熱し、陽性と判定。予防を呼び掛ける立場での感染を申し訳なく思